

# 平成 27 年度 長伏小学校区 第 1 回地域コミュニティ連絡会まとめ

6月2日(火)に開催された「長伏小学校区第1回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。まとめができましたので、送付いたします。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)

ご参加ありがとうございました。



## 【当日参加団体一覧】

団体名		
長伏町内会	保護司会	中郷西中学校
松本町内会	交通安全母の会	中郷西中学校 PTA
御園町内会	松本幼稚園	中郷西中学校支援地域本部
民生委員・児童委員	松本幼稚園 PTA	消防団第 18 分団
長伏老人会	長伏小学校	松本子ども会
中郷地区地域包括支援センター	長伏小学校 PTA	

※当日参加者 22 名

## 【地域の情報交換】

～各団体より校区の皆さんへ、情報提供 & ご協力をお願い～

- 長伏小学校：スクールガードの日々のご協力に感謝している。下校時間に合わせて散歩をしたり、家の前に立つ等、より多くの方々に見守りにご協力いただきたい。
- 中郷西中学校：親同士のつながりを強くする為、毎日の挨拶運動と学級連絡網を復活した。少子化により将来廃校の危機があるので、存続できるように考えてほしい。生徒へ防災訓練でやりたい事アンケートを実施したので、参考にしてほしい。
- 民生委員：きずなは薄れ、今の親は注意もしない。地域全体で子どもを叱って育てていきたい。
- 交通安全母の会：子どもの登下校時の見守りに協力をお願いしたい。

### <会場アンケート>

話し合いたいテーマについて、参加者の意向を伺いました。



## 【テーマ別会議】

会場アンケートの結果
① 防災訓練で中学生が活躍できるプログラムを実践しよう！・・・・・・・・・・ 4人
② 子どもたちを犯罪から守る取り組みを実践しよう！・・・・・・・・・・ 10人
③ スポーツを通じて地域のきずなづくりを深めよう！・・・・・・・・・・ 5人
④ その他・・ 0人

※アンケートの結果、テーマ②③について話し合いました。(次頁以降「テーマ別会議まとめ」参照)

参加者の発言内容を「現状・お困りごと」と、課題解決に向けた「解決策・アイデア」に分類しました。

テーマ②

「子どもたちを犯罪から守る取り組みを実践しよう！」

本日は小学生・中学生の子どもを対象として、登下校時の安全対策に関する取り組みを中心に話し合いました。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
下校時間の周知		<ul style="list-style-type: none"> <li>●下校時間が不明。</li> <li>●学校まで 1.5km あり、心配。</li> <li>・孫が今日、何時に変わるか常に知るようになっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一般の方の協力を得る為に、下校時間をお知らせする放送や、メール連絡等ができるならやってほしい。</li> </ul>
スクールガードを増やそう	現在の取り組みを再確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクールガードの人手が足りない。</li> <li>●人手が少なく大変だが、ボランティアで活躍してくれている。</li> <li>・毎日の見守りは難しい。</li> <li>・見守りは学校周辺しか行われていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方（特にお年寄り）の朝・夕の協力を願いたい。</li> <li>●犯罪から身を守るためには、学校まで付いて行く。</li> </ul>
	地域でできる事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ボランティアの遣り甲斐、生きがいを感じることができる。</li> <li>・スクールガードの増やし方は、町内の状況が異なるため、町によって異なる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会、各組に呼びかける。遣り甲斐を伝える。</li> <li>・町内の中で、人材を発掘する。</li> <li>・各町内の状況にあった方法を考える。</li> </ul>
	保護者ができる事	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町内会は協力しきれない。PTA がもっと協力すべき。</li> <li>・交通安全母の会：夜のパトロール年 6 回程実施。</li> <li>●地域活動への親の参加率が悪い。特に父親。仕事の都合で参加が難しい。</li> <li>・子どもの上下の繋がりが弱い。親同士の繋がりが弱い→町内の弱体化に繋がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親がもっと関わるべき。PTA が主体に。</li> <li>●PTA の集まりの中で情報を共有し、協力者を募る。</li> <li>●しっかり活動している親もいる。参加する保護者の裾野を広げる。</li> <li>・PTA の親の意識を変える。</li> <li>・保護者に地域の事を知ってもらう。</li> </ul>
	増やす方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガードの人数を増やすか、実施日数を増やすことが有効だが、負担増となるので困る。</li> <li>・組織としてやると窮屈に感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・老人会の協力。</li> <li>・PTA の協力。</li> <li>●地域の幅広い層の人の協力が必要。</li> <li>●気軽にできるように、散歩中の人に腕章や帽子などを身につけてもらう。</li> <li>・市に協力を求め、ベストやジャンパーを用意して、着てもらう。</li> </ul>

	現状・お困りごと	解決策・アイデア
防犯対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駆け込み 100 当番について、よくわからない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きちんと PR するといい。</li> <li>・PTA 会員の車に防犯カードを付けてもらう。</li> <li>・企業への協力依頼。企業の車に「防犯パトロール中」のステッカーを貼ってもらう。</li> </ul>
危機意識を養う		<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分の命を自分で守る意識を養わせる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に学校現場で起きている問題点を、地域で話し合うべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場から声を発してほしい。</li> </ul>

### 今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇下校時間を地域の人に周知し、散歩中にパトロールの腕章を身につけてもらう等、多くの人気が気軽に参加できる見守りの方法を取り入れてみよう！
- ◇スクールガードでは遣り甲斐や生き甲斐を感じることができる。遣り甲斐を伝える等して、各町内会でスクールガードに協力してくださる方を発掘しよう！
- ◇保護者と地域の方が一緒になって地域活動に取り組められるように、保護者が関わりやすくなるやり方・アイデアを皆で検討しよう！



今回の話し合いで出された意見を参考にして、各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！  
 次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！

テーマ③	<b>「スポーツを通じて地域のきずなづくりを深めよう！」</b>
------	----------------------------------

「体育行事の活性化」から「子どもを中心としたきずなづくり」へと話し合いが進みました。

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
スポーツを通じて得られる効果	健康		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動を中学や高校で終わらせず、大人になっても続けさせ、健康意識を高めたい。</li> </ul>
	仲間づくり		<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども会ではスポーツやお祭りで仲間づくりをしている。皆で楽しく参加してもらいたい。</li> </ul>
	地域とのきずなづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きずなづくりが大切。</li> <li>・地域の人と知り合える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動会を通じて、子ども達と地域ときずなづくりができる。</li> </ul>
	人間力・礼儀を養う	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人間力を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ少年団は技術だけでなく、挨拶や道徳を教える。技術は最後。心→体→技術の順に指導する。</li> </ul>
体育行事の活性化に向けた取り組み	体育行事の参加者が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現在、体育振興会に所属して活動しているが、各行事(野外運動、室内運動)の参加者が減少し、さみしい状況。何とか打破したい。</li> <li>・昔は地域や家族が、子どもと一緒に行事に参加していた。</li> </ul>	
	子ども中心へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親中心の行事だと、親の都合で不参加になる。</li> <li>・長伏の運動会では、子ども達に仕事を与えている(放送係など様々な仕事)。また、最後に町内からご褒美がもらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども中心にすれば親が付いてくるのではないか。</li> <li>●子どもは仕事を持つと運営している意識を持ち、喜んで仕事をする。</li> <li>・子供に自由にやらせると大人が想像していないような結果になり、大人が学べることもある。</li> </ul>
	種目の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人が一生懸命やれるスポーツをメインに考えている。</li> <li>・種目がマンネリ化している。</li> <li>・人口が減少している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども中心の種目を増やす。</li> <li>●運動会のプログラム作成を子どもに任せる。企画に参加させる。</li> <li>・子ども自身が決め、実行すると盛り上がる。</li> <li>・他の町内と一緒にやるプログラム等、集約することも今後必要になってくるのではないか。</li> </ul>

		現状・お困りごと	解決策・アイデア
	反省会を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大人と同じように終了後の反省会を子どもも非常に楽しみにしている。</li> <li>・お金の問題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後のお楽しみとして、子どもの反省会を行う。</li> <li>・運動会に出られない高齢者も反省会に誘って、来てもらう。</li> <li>・誰もが集えられるテーマでの集まり（反省会）が求められる。</li> </ul>
	参加呼びかけ (アパートマンション問題)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アパート住人、若い人、転入者などは、地区の人に声をかけてもらえないという状況もある。</li> <li>●地区の区割りが分からず、参加しにくい。</li> <li>・地元の大家ではなく、管理会社がアパート管理をしていると声をかけづらい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●アパート、借家への声かけ、若い層への参加呼びかけが必要。</li> <li>・町内全体に声かけをする。</li> <li>・参加の有無に関わらず、回覧板で周知を図る。</li> </ul>
地域で子どもを育てる	子供に社会体験を積ませる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもに様々な社会体験をさせたい。</li> <li>・自分とやり方が違うからと子どもを否定すると、2度とやらなくなってしまう。</li> <li>・子どもを叱れる勇気を持った大人になることも必要とされる。</li> <li>・世代の違いによる学びがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●盆踊り、納涼祭を子どもに任せる。</li> <li>・いろいろな人と話す。</li> <li>・大人と一緒に行動することにより、ルールを学ぶ。</li> <li>●子どもを認める。広い心で見守り、経験を積ませることが大切。</li> </ul>
	部活動の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に祭り等やってもらいたい、部活を休むかどうかは、親の判断や子ども同士の間関係が影響する。各々の価値観が異なるので難しい。強制できない。</li> </ul>	

## 今回の話し合いから生まれた課題解決に向けた取り組み案

- ◇地域のきずなづくりのキーワードは子ども。スポーツだけでなく、祭りなども子ども中心に考えていこう！
- ◇社会体験を子どもに積ませ、大人はそれをサポートする役割に徹してみよう。そうすれば、子どもの親も地域に関心を持ってくれるはず！

今回の話し合いで出された意見を参考にして、  
各団体や各町内会で課題解決に向けて取り組んでみよう！  
次回の地域コミュニティ連絡会で、進行状況の確認ができるといいね！



